

可茂農林事務所の普及活動状況 令和7年2月28日現在

今月の重点活動

■「明日の可茂農業を考える会」 農林事務所の活動成果を発表

可茂農林事務所及び可茂地域農業振興協議会の主催で、2月13日に可茂総合庁舎において「令和6年度明日の可茂農業を考える会」を開催した。

農林事務所の取組み成果を発表するとともに農業に関する講演会を行うことで、地域農業の発展につなげようと毎年2月に開催している。今年度は、農業者や担い手リーダー、市町村担当者等関係機関職員を含めて約100名の出席者があった。

農林事務所から「山之上フルーツ塾が新規就農者を育成」と題して果樹産地の新規就農者育成についての活動成果を発表した他、岐阜大学社会システム経営学環の前澤重禮特任教授を講師に迎え、「農業経営を激変させるたった一つの方法」と題して講演をいただいた。その他、JAめぐみの職員による活動事例発表も行い、会場からは多くの質問があり、農林事務所やJAへの今後の期待の声も聞かれた。



【発表する五十川主幹】

(地域支援第一係)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■関係機関連携 営農連絡会議で情報交換

2月12日に可児地域、21日にみのかも地域、26日に白川地域で、市町村、JAめぐみの、岐阜県農業共済組合中濃支所、可茂農林事務所が出席し、営農連絡会議を開催した。

各機関から今年度の主要事業等の進捗状況や農産物の生産販売実績が報告され、農業普及課からは実証ほでの生育・収量・品質調査結果を報告するとともに、近年の異常高温対策など喫緊の課題を盛り込んだ次年度普及指導計画案について説明し、関係機関から意見を聴取した。また、就農5年以内の新規就農者へのサポートチーム支援活動について情報共有して対象者への伴走支援の充実につなげ、スマート農業や有機農業の推進についても意見交換を行った。

農林事務所では、今後も関係機関と連携し、普及指導計画に基づいて地域や産地の課題解決に向けて活動していく。



【白川地域営農連絡会議】

(地域支援第二係)

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■大豆 令和7年産収量・品質向上に向けた取組み

白川町では町内豆腐加工業者へ大豆の契約出荷を行っているが、令和5～6年度にかけて、気象状況の変化や病害虫の発生等の要因により収量が減り、契約数量を達成できていない。

令和7年度大豆の目標収量達成に向けて、2月4日に白川町と同じ品種「里のほほえみ」で多収を実現している北陸地方の生産者の話を生産組織の大豆担当者がオンラインで聴講し、生産意欲の向上を図った。また、2月21日には、白川町農業再生協議会が農研機構から講師を招き、ほ場条件



【2/4 大豆オンライン聴講】

の改善や栽培方法の提案等指導を受けた。生産組織では、今回指導を受けた内容の中で可能な部分から取り組み、次年度以降収量・品質の向上を図っていく。

農林事務所は関係機関とともに、高温対策（うね間かん水）実証等を行い、契約数量の確保に向けて支援を継続する。

(地域支援第二係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■小麦 令和7年産(令和6年播種)小麦は順調な生育

令和7年産(令和6年播種)小麦(品種:さとのそら)は、可茂管内で8経営体が行い、計40.5haが作付けされている。播種後の気温は平年並み、少雨で推移しており、農林事務所の生育調査(月2回)では湿害もなく順調で、平年並みの生育状況である。2月末の調査では幼穂を確認し、生産者や関係機関への情報提供を行った。今後も引き続き、生育状況を把握するとともに生産者へ穂肥(3月上中旬)、赤かび病防除(出穂時:4月中下旬)、排水対策(明渠等排水溝の補修)の助言を行い、収量・品質向上へ向けた支援を行う。



【生育調査(幼穂確認)】

(地域支援第一係)

■ナシ 新規就農者が新たな取り組み「ナシジョイントV字樹形」を導入

美濃加茂市山之上地域において、令和7年から新規就農者が「ナシジョイントV字樹形」を導入した栽培方法に取り組んでいる。

「ナシジョイントV字樹形」とは、複数の樹を接ぎ木によりつなぎあわせて地表面と平行に主枝1本の樹を作り、その主枝からでる側枝を斜立させてV字に誘引していく樹形で、神奈川県農業技術センターで開発された。この栽培方法のメリットは、従来成園化に10年かかっていたが、定植5年後には成園となること。直線的な単純樹形のため一定方向



【定植されたナシの樹】

に管理でき、受粉や摘果等の作業時間が短縮される。特に高度な熟練技術が必要とされた剪定は、側枝の更新のみとなり、大幅に作業時間が削減され、栽培経験の浅い方でも可能となる。

山之上でこの栽培を導入した新規就農者は、ナシ棚を令和7年1月に完成させて2月に定植、3月下旬に接ぎ木を行い、1列40本のナシの樹をつないで1本にする。

山之上の果樹産地では高齢化や労働力不足が進んでおり、その対策として早期成園化や省力化が図れる「ナシジョイントV字樹形」による栽培方法は有望であり、農林事務所では今後、この栽培方法の効果を確認し、他の生産者や新規就農者へ推進していきたいと考えている。

(園芸産地支援係)